

030

## 人と自然のつきあい方を考える 高知県黒潮町の防災ツーリズム

### 取組主体

一般社団法人黒潮町観光ネットワーク  
(黒潮町防災ツーリズム事務局)

### 従業員数

事務局 3  
人、実施事  
業者 5 団  
体、ほか

### 想定災害

地震・津波

### 実施地域

高知県幡多  
郡黒潮町

「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」を目標に、地域住民の自助力を高めるとともに、地域外に向けた新たな観光資源として、防災ツーリズムのプログラムを提供している。

### 1 取組の概要

#### 自然とうまくつきあうための作法として巨大津波災害に備える視点を地域外に提供

- ・黒潮町では、過去に大きな被害をもたらした南海地震がおおむね 100～150 年ごとに発生してきた歴史を踏まえ、津波だけでなく地震や土砂崩れ、洪水、台風、森林火災など多岐にわたる災害に備える視点で防災の取組を行っている。
- ・一般社団法人黒潮町観光ネットワークではその一環として、地震や津波の恐ろしさだけでなく、自然が持つ「恵み」と「災い」の二面性を理解し、「人と自然のつきあい方」を考え学ぶ5つの防災プログラムを、地域外に向けた防災ツーリズムとして展開している。
- ・具体的には、黒潮町の歴史や津波の碑から先人たちの教えを学ぶ防災学習プログラム、地区防災組織が日頃から実施する取組を学ぶ地域防災実感プログラム、国内最大級の津波避難タワーの見学プログラム、食から防災を考える防災缶詰プログラム、宿泊型の夜間避難訓練プログラムがある。各プログラムの中では、黒潮町住民が自身の命を守るために平時から取り組んでいる防災活動に関する講義や、災害時に発生する状況を事例に自分たちがどのように判断するか考え共有する防災ワークショップ（以下、WS）などが盛り込まれており、「自分の命は自分で守る」ために自ら考え行動する力を身に付け、自然とうまくつきあうための文化や知恵を学ぶ機会を提供している。
- ・これらのプログラムの参加者には、観光客のほか、主に地域外の学校や教育委員会・社会福祉協議会関連（民生委員・児童委員）・消防団・行政職員などが多い。これらの参加者が、防災への高い意識を持ち、災害時に自らの命を守るとともに、避難後の生活の準備まであわせて考えることを促している。

### 2 取組のきっかけと想い

- ・2012 年に内閣府から 34.4m という国内最大級の津波高想定が公表され、風評被害により旅行のキャンセルや住民の町外流出が相次ぎ、「震災前過疎」の事態を招いた。
- ・この逆境を契機に、当時の町長が「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」の目標を掲げて様々な防災対策を推進した。ハード事業として津波避難タワーの建設や避難道の整備、ソフト事業として住民の意識改革や防災教育、防災 WS などの取組を重ねることにより、防災を町の文化として定着させた。
- ・これらの防災の取組に注目が集まり、地域外からの視察が急増した。そこで、この防災の取組を町の新たな観光資源として捉え、防災ツーリズム検討会（現在の防災ツーリズム推進会）を立ち上げた。



地域担当職員と住民による防災 WS



防災学習プログラム



防災から生まれた産業、缶詰製作所がつくる缶詰



津波避難タワー

### 3 取組の特徴（差別化した点、地域特性などで工夫した点等）

#### 人と自然のつきあい方を考える防災ツーリズム

- 被災地としての防災ツーリズムではなく、多岐にわたる自然災害に備える視点からの防災ツーリズムを展開している。津波などの災害が想定されるという地域特性を生かし、マリンアクティビティやカツオのタタキづくりは海からの「恵み」を感じるプログラムとして、防災学習プログラムや地域防災実感プログラムは海の「災い」を知るプログラムとして、自然の二面性を理解してもらうプログラム構成としている。

#### 多様な組織連携

- 地区防災組織、缶詰製作所などの防災産業、宿泊施設などの観光関連事業者、教育関係者、行政、防災関連の大学機関、NPO、地域 DMO など、多様な組織が連携して取組を実施している。具体的には、住民 WS の実施など本取組を行うための素地となる町内の防災に関する連携体制づくりを黒潮町や高知県が、黒潮町防災ツーリズム事務局（プログラムの造成・情報発信・調整手配など）を同法人が、防災プログラム実施を各町内事業者や団体（NPO・缶詰製作所・宿泊施設・地区防災組織など）が担っている。

### 4 取組の効果

#### 受入件数の増加と、町民の防災意識の向上

- 防災ツーリズムの窓口を一元化し、プログラムを多様化したことで受入件数が増加（2019 年 6 件→2023 年 59 件、そのうち約 8 割が県外参加者）。
- 地区防災組織がプログラムを実施することで、参加費が地区の収益となり、自主財源で備蓄品を購入する、といった経済的好循環の仕組みを構築することができている。観光関連事業者も受入対応を通じて防災訓練を重ね、施設の安全管理や避難誘導の改善につながっている。

#### 周囲の声

- 「黒潮町が、大自然と共生しながら、防災にも力を入れている町ということがよく分かった。自然の恵みと災いを同時に学ぶことで相乗効果が得られた」（プログラム参加者）
- 「県外からプログラムに参加し、廃材を活用した自前のできるトイレづくりを学び、実際に家に帰ってから作成した」（プログラム参加者）
- 「『黒潮町は危険な町で行くのが嫌だ』という気持ちから、プログラムを通して地域の方々と話したことで、津波についてきちんと知ることができ、自然の魅力があふれ、防災の取組が充実した安全な町と分かった」（プログラム参加者）
- 「プログラムを実施することによって、施設の安全管理に関する見直しの必要性や課題が見えた。安心・安全の提供の改善につながっている」（プログラム実施事業者）

#### 担当者の声

- これまで全国から防災を学ぶ学生や自主防災組織などを受け入れてきました。防災をきっかけに来訪した方々は、黒潮町の防災サポーターとして災害時における支援者になっていただけていると考えています。
- 今後も一般団体や教育旅行の受入れを通じ、防災意識の向上と人と自然とのつきあい方に対する意識の醸成を促したいと考えています。観光面からも「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」の目標に向けて尽力していきたいと思っています。

#### 問合せ先

一般社団法人黒潮町観光ネットワーク 法人番号：6490005006723  
 電話番号：0880-43-0881 FAX：0880-43-1527  
 E-Mail：info@kuroshio-kanko.net URL：https://kuroshio-kanko.net/

#### 動画



#### サイト URL

